



焼 濃 美

い か せ の

日本のやきものは

岐阜県東濃地方では良質な粘土、薪となる赤松林、窯に適したなだらかな山がそろう自然の恩恵を生かし、やきものの産地として、1300年以上もの歴史を刻むなか、独創的で斬新な茶陶から大量生産の日用食器まで多種多様なやきものが焼かれてきました。それらを総称して「美濃焼」と呼んでいます。特定の作風や技法、形式をさすのではなく、つくられた地域を限定した名称なのです。移りゆく時代や人々のニーズに応え、日々の生活にひっそりと寄り添いながら進化してきた柔軟性と、それを実現する技術力が美濃焼の魅力といえます。あなたが今朝コーヒーを飲んだカップも、実は美濃焼だったら、ロマンを感じませんか？

そんな「美濃焼」の多様性をのぞく旅に出かけましょう。作り手と使い手の間にある濃やかで、美しいストーリーがあなたを待っています。

あれもこれも実は“美濃焼”



02	プロローグ
03	コンテンツ
04	美濃焼の産地
06	美濃焼の歴史
14	美濃焼の可能性
16	美濃焼を見る
18	美濃ゆかりの人間国宝
20	美濃焼の作家
26	美濃焼の虜たち
28	美濃焼を体験
30	美濃焼と美食
32	美濃焼を買う
34	東濃イベントカレンダー
36	エリアマップ
38	美濃焼の旅INFORMATION

美濃焼好き30人のこころのうち

美濃焼の地を旅するあなたへ、美濃焼好きの人々から贈るメッセージ集。旅のお供に、美濃焼の魅力を紹介します。

美濃焼のふるさとをめぐる

美濃焼は、主に岐阜県多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市で生産された、やきものの総称です。この地域は日本でも有数のやきものの産地で、和・洋食器類の生産量は現在、国内シェアの50%以上を占めています。

明治時代以降、大量生産化に伴い、製品ごとの産地分業化が進みました。各地域に特徴あるエリアが形成され、それぞれ技術や文化を受け継ぎ、製品をつくり続けています。

多治見市では「壺の市之倉」「徳利の高田」

「洋食器の滝呂」「タイルの笠原」が知られています。土岐市には「どんぶりの駄知」「美濃白磁で有名な妻木」「徳利生産日本一の下石^{おろし}」など、特色ある地域がそろいます。瑞浪市は食器からニューセラミックまで幅広い陶磁器^{とくし}を生産する瑞浪地区、洋食器の一大産地の陶地区に分かれています。

多くの陶芸作家の活動拠点にもなっていて、各地に工房が開かれています。博物館や美術館など、美濃焼関連施設も点在しています。



美濃焼ブランドの再構築 「セラミックバレー構想」

分業、専門化が進む美濃焼業界において、多様性の統合を図り、美濃焼の伝統や価値を共有しつつ、文化や歴史、産業をリブランディングして、地域の活性化につなげていこうとする動きが生まれています。

それが「セラミックバレー美濃」。作家や窯元、商社や関連企業が集う多治見、土岐、瑞浪、可児の4市を中心とした美濃焼の産地を表現する旗印です。2021年4月には、地域全体での発展をめざす民間組織「セラミックバレー協議会」が発足しました。

「世界は美濃に憧れる。」をキャッチコピーに、美濃焼の魅力を国内はもとより、海外にも広く発信していくことを目標に掲げ、第一歩を踏み出しています。世界へ向けての物販や、やきものを通して日本文化を広める「From MINO」。旅行客の誘致による産業観光の活性化をめざした「To MINO」。この両面からアプローチを展開して、美濃焼業界の未来を切り拓こうとする取り組みに、今、期待が高まっています。

ロゴの右下にある赤い形は、大きな円の一部分です。その目に見えない大きい円が、地域、環境、地球、そこに生きる人たちの想いなど、さまざまなモノやコトを意味しています

CERAMIC
VALLEY
Mino
Japan

「国際陶磁器フェスティバル美濃」

次回、第13回を2024年に開催(2024年10月18日~11月17日)

会場:セラミックパークMINO 他

「国際陶磁器フェスティバル美濃」は、1986年から3年に1度開催している世界最大級の陶磁器の祭典です。「土と炎の国際交流」をメインテーマに、陶磁器のデザインと文化の国際的な交流を通じて、更なる陶磁器産業の発展と文化の高揚を目指しています。

メイン催事である「国際陶磁器展美濃」は、国際的に認知された陶磁器コンペティションで、世界中の国と地域の作品が一堂に会す展覧会です。イタリアの「ファエンツァ国際陶芸展」、韓国の「世界陶磁ビエンナーレ」、台湾の「台湾国際陶芸ビエンナーレ」と並ぶ世界4大陶磁器コンペティションと称されています。

期間中はメイン催事に加え、来場された方々が美濃焼の魅力や地域の風土を存分に感じ、楽しむことができる副催事を地域各所で多数開催します。

【セラミックパークMINO】

メイン会場となる「セラミックパークMINO」は、豊かな自然と融合するように建てられた施設で、展示ホール、作陶施設、美濃焼ショップ、茶室などの様々な施設を有する美濃焼のテーマパークです。また、近現代の陶芸作品が集まる「岐阜県現代陶芸美術館」が併設されており、ゆっくりと陶磁器文化に触れることができます。



(上) 前回(第12回)の国際陶磁器展美濃
(左) 会場となるセラミックパークMINO



一大生産地への序章

富裕層に向けた「灰釉陶器」

朝鮮半島から5世紀前半に日本に伝来した「須恵器」は、無釉の硬質土器です。美濃には7世紀頃に伝わってきました。山の斜面を利用して築かれる、地下式・半地下式の「窖窯」と呼ばれる窯で焼かれていました。窯跡は多治見市や土岐市、瑞浪市、可児市などで10基ほど発見されていますが、窯数の少なさから地域の需要を満たすくらいの生産だったと考えられています。ここから美濃焼の歴史が始まりました。

9世紀の後半(平安時代)、「灰釉」の技術が伝えられます。「灰釉陶器」は中国の磁器に似せて、植物の灰を主成分とした釉薬を施した陶器です。貴族階級や寺院などの富裕層に向けた、質の高い陶器として広く流通し、美濃はやきものの産地として知られていきます。以後、11世紀(平安時代)まで盛んに焼かれました。

一部の窯では「緑釉陶器」も焼かれていました。鉛釉に銅を加えて低火度で焼くと、釉が緑に発色するのです。主に祭祀器や仏具などがつくられました。



灰釉陶器 長頸瓶
多治見市教育委員会蔵

大量生産された庶民の器「山茶碗」

11世紀末、美濃では無釉の陶器がつくられ始めます。この変換にはさまざまな理由が考えられますが、釉薬をつける灰釉陶器は手間がかかるうえ、大量生産できない点が大きかったと思われます。

無釉とすることで重ね焼き(大量生産)が可能となり、碗や皿などが焼かれて、庶民向けの器として流通しました。山中の窯跡で、廃棄された破片が多数採取されることから「山茶碗」と呼ばれています。簡素なつくりながら、土のキメが細かく、薄手で、陶工の技術の高さが見て取れるやきものです。

12世紀(平安時代末期)から15世紀(室町時代)にかけて、約400年もの長きにわたって生産され、主に東海地方で消費されました。14世紀頃になると、より生産効率を上げるために茶碗や皿は薄く小型化し、ロクロ目が目立つなど雑なつくりになっていきます。最終的には高台さえなくなってしまいました。

15世紀の中頃には山茶碗と並行して、古瀬戸系施釉陶器もつくられました。美濃にやってきた瀬戸の陶工によって生産されたもので、8基の窯が確認されています。



山茶碗 碗・小皿
多治見市教育委員会蔵

黄瀬戸

KIZETO

温かみのある色に惚れ惚れ

中国のやきもの「華南三彩」の影響で誕生したと言われています。灰釉に含まれたわずかな鉄分が酸化炎焼成により、渋くすんだ黄褐色を発色させ、全体に温かみを感じられるやきものです。器の形は歪みなく、端正。

黄瀬戸花入 元屋敷東窯 重要文化財 土岐市美濃陶磁歴史館蔵



安土桃山時代 美濃焼の白眉

桃山陶

瀬戸黒

SETOGURO



その漆黒に目が吸い込まれる

鉄の釉薬を施した器を、1200度前後で焼成中に窯から引き出し、常温まで急速に冷やします。すると、器は深い黒色と艶を帯びます。焼成の途中で窯から取り出す技法から「引き出し黒」と呼ばれています。漆黒ながら、どこか柔らかかみを感じられ、茶人たちが夢中になりました。

瀬戸黒茶碗 電燈所た欄コレクション 多治見市美濃焼ミュージアム蔵

絢爛豪華な文化が花開いた桃山時代。茶の湯の流行から、国産の茶陶が注目されます。当時主流だった中国の模倣から離れ、自由で斬新な造形と、豊かな色彩のやきものが美濃でつくられました。それが「美濃桃山陶」です。16世紀の末期～17世紀初頭（安土桃山時代末期から江戸時代初期）のわずか30年ほどの期間でしたが、数多くの名陶がつくられ、美術品としても高く評価されています。

志野

SHINO

白へのあこがれから生まれた

中国の白磁を写そうとする過程で生まれた、白いやきものです。釉薬は植物の灰ではなく、鉱物の長石を主原料としました。最大の特徴が、日本で初めて下絵付がされたことです。下絵付とは釉薬をかける前に絵付けをする技法で、鉄を含む材料でつくられた絵の具が用いられました。



志野茶碗 銘都鳥
土岐市美濃陶磁歴史館蔵

織部

ORIBE

緑釉を中心とした斬新な意匠

「へうげたるもの（ひょうきんなもの）」を好んだ茶人古田織部にちなんで織部の名で呼ばれています。大きく歪んだ奇抜な造形、緑・赤・白・黒などの色彩、大胆で幾何学的な文様などを特徴とし、従来のやきものの概念をくつがえす当時の前衛陶芸であり、美濃桃山陶の集大成とも言えます。

鳴海織部向付 元屋敷窯
重要文化財
土岐市美濃陶磁歴史館蔵



陶器から磁器への転換

庶民の暮らしを支えた日用雑器

隆盛を極めた美濃桃山陶でしたが、権力者の交代により、これまでとは異なった新しい趣のやきものとなります。独創的で自由な織部ではなく、端正で上品な「御深井」の誕生です。これにより、美濃桃山陶の記憶は次第に失われていきました。

しかし江戸時代中期になると、鉄釉や灰釉の碗や皿、徳利、土鍋などの日用雑器が生産の中心となります。やきもの産地としての存続を見据え、改めて市場を強く意識したことによる変化でした。飲食器だけでなく、ひょうそくなどの灯明具、仏壇に供える仏花瓶などの仏具類、餐付油を入れる餐ダライ、小鳥の餌入れの餌猪口など、美濃焼は江戸の暮らしのさまざまな場面で使われていました。そんななか、高田の徳利や駄知の土瓶のように、地域ごとの産品も生まれています。

江戸後期、磁器の製造が始まります。陶石を用いる九州有田とは違い、美濃には陶石がなく、蛙目粘土に長石や珪石を混ぜた土で磁器がつくられました。陶器よりも硬くて白い磁器の生産は広まっていき、多くの新規参入者も現れました。



御深井釉摺絵餐盤 乙塚東窯 土岐市美濃陶磁歴史館蔵

世界市場に乗り出した美濃焼

明治時代には美濃焼の国内需要が急激に伸びていきました。手描きから型紙摺絵、銅版転写などの加飾技法が採用され、経済性や効率化を追求したことで、低コストによる大量生産が可能となり、美濃は陶磁器の一大産地へと発展を遂げていきます。

しかし一方で、美濃焼は大量生産品に過ぎないという評価も生まれています。そんな美濃焼の名誉を挽回しようと、多治見の陶器商・三代西浦圓治が自家の窯で「西浦焼」を始めます。最初に制作を担ったのは、名工・加藤五輔。精巧で緻密な染付製品がつくれ、国内外で紹介されます。

明治11(1878)年のパリ万国博覧会で名誉賞を受けるなど、西浦焼は世界で認められ、海外の市場に参入。五代圓治の頃になると、多彩な絵の具により下絵付の文様を描き、その上に透明な釉薬をかけて焼く「釉下彩」の技法による絵付けが主流となります。当時流行していたアール・ヌーヴォー様式を取り入れたり、花鳥風月など日本をモチーフにしたりと、海外での評価も高く、世界の人々に愛好されました。



西浦焼 釉下彩紫陽花図花瓶
多治見市美濃焼ミュージアム蔵

美濃桃山陶の復興と継承

「志野」の再興に尽力した荒川豊蔵

昭和に入ってからなる量産化が求められ、機械化の進展とともに独自の技術開発などを行い、さらに多様化していく需要に応じていきます。

地場産業として歩みを進めると並行して、芸術性の高い美濃焼をつくり、自らの表現を追求する陶芸家が登場します。そのなかのひとり、荒川豊蔵が昭和5(1930)年、可見市で志野の陶片を発見しました。それまで桃山陶は瀬戸でつくられていたという常識を覆し、桃山陶の産地が美濃であったことを明らかにした画期的な発見でした。

豊蔵は採集した陶片を研究して、志野、さらには瀬戸黒の復興に取り組みしました。単なる再現にとどまらず、独自の造形美と色彩美を誇る作品を生み出していきます。やがて豊蔵に刺激を受け、美濃桃山陶を復興すべく、多くの陶芸家たちが続きます。

美濃では、これまで豊蔵を含めて6人の人間国宝を輩出しています。そして現在も著名な作家をはじめ、400人とも500人とも言われる陶芸家が作陶に励み、先人たちの築いた技術と精神を受け継ぐと同時に、自由な発想による個性的なやきものも新しく生み出しています。



志野一文字文茶碗 荒川豊蔵
多治見市美濃焼ミュージアム蔵

15の様式が伝統的工芸品に指定

昭和53(1978)年、美濃焼は伝統的工芸品に指定されました。8・9ページで紹介した「黄瀬戸」「瀬戸黒」「志野」「織部」のほか、次の11品目があります。

灰釉	草木の灰を溶媒とした釉薬、またはそれが使われたやきもののこと
染付	白地に青の呉須で絵付けを施して、その上に透明釉をかけたもの
天目	一般に、口が開き高台の締まった形状の茶碗で、鉄黒褐色釉をかけたもの
赤絵	白い素地に赤色を主調とし、多彩な絵の具で上絵付したやきもの
青磁	淡緑、青の釉薬をかけて高火度焼成したやきもののこと
鉄釉	植物の灰に酸化鉄を加えた釉薬、またはそれが使われたやきもののこと
粉引	鉄分の多い褐色の素地に白い化粧土を施して、透明釉をかけたもの
御深井	釉薬に含まれている鉄分によって淡緑色に発色し、青磁を感じさせる
飴釉	鉄分を主成分とする鉄釉の一種で、酸化焼成により飴色に発色する
美濃伊賀	花入や水指などでみられるような伊賀風のやきもののこと
美濃唐津	織部の窯で焼かれた唐津焼風のやきもので、唐津織部とも言う

地域経済を支える美濃焼

全国シェア1位を維持し続ける

第2次世界大戦後、他産地に先駆けて、美濃焼は量産化を行っています。和食器では普及品を主体に据えて、生産量の増加を図りました。洋食器の生産も、品質の画一化とコストダウンをめざし、早くから機械成形を導入して、価格競争における強さを発揮しました。昭和40（1965）年代半ばには、量産型産地としての優位性を確立し、美濃焼は日本一の生産量を誇るに至りました。

経済産業省の工業統計表（下記の表参照）で、国内シェアの推移を追ってみると、「陶磁器和食器」は全国シェア1位を続けながら、微増傾向が見られます。「陶磁器洋食器」も1位を保持しつつ拡大傾向にありましたが、

和・洋食器

近年は横ばいの状態です。そんななか、和・洋食器も多品種少量への転換や、デザインを重視したものづくり、フレンチにも合う和食器の提案など、新たな動きが出てきました。

不要となった食器を回収してリサイクルする、環境に配慮した「Re・食器」も注目を集めています。さらには美濃焼のブランド力を高め、海外への販路拡大を掲げる「セラミックバレー構想」も進められています。

また、「土岐美濃焼まつり」をはじめとする陶器まつりの開催、「道の駅 志野・織部」「道の駅 どんぶり会館」などでの販売と、美濃焼の和・洋食器をもっと身近に感じてもらえる機会や場を設けて、国内消費の拡大にもつなげています。

陶磁器関連製品の出荷額と全国シェア 工業統計表（品目別／従業員4人以上の事業所）より作成 ※令和元年の「モザイクタイル」のデータは未掲載

品目名	平成15年(2003)		平成25年(2013)		平成29年(2017)		令和元年(2019)	
	出荷額(百万円)	全国シェア	出荷額(百万円)	全国シェア	出荷額(百万円)	全国シェア	出荷額(百万円)	全国シェア
陶磁器和食器	25,876	39.7%	11,776	39.0%	12,496	40.7%	12,852	43.4%
陶磁器洋食器	16,045	40.6%	9,763	59.9%	10,412	70.7%	8,915	69.8%
モザイクタイル	19,854	87.9%	14,285	85.1%	13,431	86.0%	—	—
陶磁器用坏土	12,562	46.2%	7,010	62.7%	6,685	58.5%	7,009	61.3%

シェア約6割の高品質な 陶磁器用坏土

東濃、瀬戸地域には、花崗岩を起源として形成された粘土層が広く分布しています。この良質な土こそ、美濃の地でやきもの産業が栄えた大きな要因です。

美濃で採取される粘土原料には「蛙目粘土」「木節粘土」「藻珪・砂婆」があります。蛙目粘土は世界でも最高の可塑性を誇る白粘土で、濡れると珪石の粒がカエルの目のように見えることから名付けられました。木節粘土は蛙目粘土と同じく、高い可塑性を持つ白粘土ですが、やや細かくて珪化木などを含むのが特徴です。藻珪・砂婆は花崗岩が風化した砂で、長石と珪石（比率5対5）を主成分とし、粉碎しやすく、陶磁器の重要な原料となっています。これらを調査し、陶器や磁器、タイルなど多様な美濃焼がつくられてきました。

陶磁器用坏土も全国シェアはトップです。経済産業省の工業統計表を見ると、「陶磁器用坏土」は平成25（2013）年が62.7%、平成29（2017）年が58.5%、令和元（2019）年が61.3%と、近年は6割前後で推移しています。

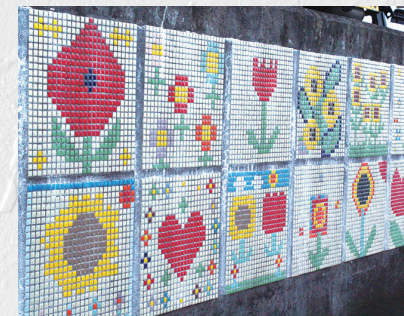


8割超のシェアを誇る モザイクタイル

大正3（1914）年、多治見でタイル産業が始まりました。昭和10（1935）年頃に、多治見市笠原町（当時は土岐郡笠原町）出身の山内逸三が、釉薬を施した磁器質のモザイクタイルの生産技術を確立させます。当初はわずかな生産量に留まっていたましたが、戦後、特に高度経済成長期の好景気と建築ブームで、一気に需要が増加しました。対米輸出も盛んに行われ、主産地だった笠原町は国内屈指のタイル生産地へと成長を遂げたのです。

経済産業省の工業統計表によれば、平成29（2017）年の「モザイクタイル」の全国シェアは86.0%で全国1位です。

近年は新たな需要を開拓すべく、高い意匠性に加え、さまざまな機能性を付随したタイルの研究開発が取り組まれています。抗菌消臭作用を実現したタイルや超軽量タイルが製品化されるなど、メーカー同士が切磋琢磨しながら、美濃焼タイル産業のさらなる発展をめざしています。



美濃焼の可能性

新たな価値を見出し、あふれるアイデアで
わたしたちの生活を美しく彩る美濃焼の数々。
美しい輝きの背景には、技術者たちの知恵と努力が秘められています。

美濃焼製ストロー MYSTRO® マイストロ

プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となるなか、ありそうでなかった洗ってくりかえし使えるストローです。

株式会社カネス

◎ 土岐市駄知町977-7 0-6
☎ 0572-59-4165
🌐 <https://mystro.jp/>

WEB



ペンダントライト

美濃焼製のシェードは、土のあたたかい質感と空間をそっと灯してくれるフォルムが特長です。

3RD CERAMICS

◎ WEBにて注文販売
🌐 <https://3rd-ceramics.com>

WEB



美濃焼・モザイクタイルアクセサリ

ほんの小さな作品1つ1つにも作り手たちの細やかなこだわりが光ります。



モザイクタイル製 洗面ボウル

色とりどりのタイルがかわいらしいレトロポップな洗面ボウルです。

株式会社日本セラティ

◎ WEBにて注文販売
☎ 0572-54-3400
🌐 <http://www.ceraty.jp/>

WEB



丸健製陶株式会社

◎ 陶都創造館(多治見市本町5-9-1)など
☎ 0572-22-5518 H-3
🌐 <https://www.marukenseitou.com/>

WEB



ソープ ディッシュ

高い吸水・蒸発性を発揮するスウセラ®製で、石鹸を清潔に保ちます。

① タイルピアス・イヤリング

TILEmade

◎ WEBにて注文販売
☎ 0572-56-1777
🌐 <https://tilemade.jp/>

WEB



② タイルペンダント

七窯社 鈴木タイル店(有限会社鈴研,陶業)

◎ 多治見市高田町8-106 C-4
☎ 0572-22-0388
🌐 <https://nanayosha.com/>

WEB



③ ヘアゴム

株式会社カネコ小兵製陶所

◎ 土岐市下石町292-1 L-7 ※毎月第1土曜のみ販売
☎ 0572-58-3433
🌐 <https://www.ko-hyo.com/>

WEB



④ ブローチ・ピンバッジ

イホシロ窯(マスターズクラフト株式会社)

◎ ちゃわん屋みずなみ(瑞浪市上平町5-5-1) R-6 など
🌐 <https://ihoshiro.com/>

WEB



⑤ タイルピアス

hacchi

◎ もとでらす東美濃(土岐市土岐ヶ丘4-5-3) L-6 など
🌐 https://www.instagram.com/hacchi_3/?hl=ja

WEB



限りある陶土・陶石を大切に——Re-食器

Re-食器の原料は、埋め立て処分されるはずだった不要食器。貴重な資源を未来に残そうと、美濃焼生産者を中心となり、環境にやさしい新たな食器のサイクル作りを進めています。



美濃焼を 見る

TAJIMI/D-6

多治見市美濃焼ミュージアム



志野・織部など桃山陶をはじめ、美濃を代表する陶芸家の作品を展示。美濃焼の歴史を紐解きながら、その魅力を発信します。

● 多治見市東町1-9-27
☎ 0572-23-1191
🕒 9:00～17:00(入館16:30)
📅 月(祝の場合翌平日)、年末年始



TAJIMI/H-7

市之倉さかづき美術館



幕末～昭和の薄く繊細な壺が並び、人間国宝・巨匠の作品も見どころ。ショップでは約100人の作家作品を展示販売。

● 多治見市市之倉町6-30-1
☎ 0572-24-5911
🕒 10:00～17:00(展示室入場16:30)
📅 火、年末年始



TAJIMI/H-3

多治見市文化工房
ギャラリーヴォイス

やきものを中心に展覧会を開催し、アートに関する良質な情報を発信しています。工房では美濃焼に上絵付の体験もできます。

● 多治見市本町5-9-1 陶都創造館3F
☎ 0572-23-9901
🕒 10:00～18:00
📅 水(祝を除く)



TAJIMI/J-7

多治見市モザイクタイルミュージアム



多治見が生産量日本一を誇るモザイクタイル産業の歴史と魅力を紹介。タイルが彩るフォトジェニックなスポットです。

● 多治見市笠原町2082-5
☎ 0572-54-5101
🕒 9:00～17:00(入館16:30)
📅 月(祝の場合は翌平日)、年末年始



TAJIMI/C-5

とうしん美濃陶芸美術館



東濃信用金庫併設の美術館。加藤孝造氏が制作した陶壁や現代美濃陶芸作家の茶碗が見どころです。

● 多治見市虎溪山町4-13-1
☎ 0572-22-1155
🕒 10:00～17:00 ㊦月(祝の場合翌平日)、年末年始、展示替期間



TAJIMI/J-3

岐阜県現代陶芸美術館



「陶芸の現代」をテーマに国内外の近現代陶芸作品を紹介。様々な角度から陶芸の「今」を伝えます。

● 多治見市東町4-2-5
☎ 0572-28-3100
🕒 10:00～18:00(入館17:30)
㊦月(祝の場合翌平日)、年末年始



TOKI/L-4

KOYO BASE



ホテルや飲食店でも使われる、プロユース食器を家庭にをテーマに、食卓を彩るうつわの魅力を提案・販売をしています。

● 土岐市泉町久尻1496-5
☎ 0572-55-5501
🕒 11:00～17:00
㊦火、水



TOKI/K-3

土岐市美濃焼伝統産業会館



この地で継承されてきた美濃焼の伝統的技法に関する資料や陶磁器を展示販売。作陶・絵付け体験も有(要予約)。

● 土岐市泉町久尻1429-8
☎ 0572-68-9400
🕒 9:00～16:30
㊦月(祝の場合火・水)、祝の翌日、年末年始、他



MIZUNAMI/Q-5

瑞浪市市之瀬廣太記念美術館



瑞浪市出身の彫刻家、故・市之瀬廣太氏や天野裕夫氏等の作品を展示。地元ゆかりある作家の企画展も開催しています。

● 瑞浪市明世町戸狩2-17
☎ 0572-68-9400
🕒 9:00～17:00
㊦月、祝の翌日、年末年始、他



KANI/K-2

荒川豊蔵資料館



志野・瀬戸黒の技術で知られる人間国宝荒川豊蔵氏の作品やコレクションを展示。陶房・居宅も公開しています。

● 可児市久々利柳下入会352
☎ 0574-64-1461
🕒 9:30～16:00(入館15:30)
㊦月、祝の翌日、年末年始、他



TAJIMI/D-6

多治見市美濃焼ミュージアム



志野・織部など桃山陶をはじめ、美濃を代表する陶芸家の作品を展示。美濃焼の歴史を紐解きながら、その魅力を発信します。

● 多治見市東町1-9-27
☎ 0572-23-1191
🕒 9:00～17:00(入館16:30)
㊦月(祝の場合翌平日)、年末年始



TAJIMI/H-7

市之倉さかづき美術館



幕末～昭和の薄く繊細な壺が並び、人間国宝・巨匠の作品も見どころ。ショップでは約100人の作家作品を展示販売。

● 多治見市市之倉町6-30-1
☎ 0572-24-5911
🕒 10:00～17:00(展示室入場16:30)
㊦火、年末年始



TAJIMI/H-3

多治見市文化工房
ギャラリーヴォイス

やきものを中心に展覧会を開催し、アートに関する良質な情報を発信しています。工房では美濃焼に上絵付の体験もできます。

● 多治見市本町5-9-1 陶都創造館3F
☎ 0572-23-9901
🕒 10:00～18:00
㊦水(祝を除く)



TAJIMI/J-7

多治見市モザイクタイルミュージアム



多治見が生産量日本一を誇るモザイクタイル産業の歴史と魅力を紹介。タイルが彩るフォトジェニックなスポットです。

● 多治見市笠原町2082-5
☎ 0572-54-5101
🕒 9:00～17:00(入館16:30)
㊦月(祝の場合は翌平日)、年末年始



TOKI/L-4

織部の里公園



美濃窯最古の連房式登窯「元屋敷窯」や復元された安土桃山時代の窯があり、美濃焼の歴史に触れられる公園です。

● 土岐市泉町久尻1246-1
☎ 0572-54-2710
🕒 9:00～17:00 ㊦月(祝の場合火・水)、祝の翌日(土日除く)、年末年始



MIZUNAMI/Q-5

瑞浪市陶磁資料館



古代から現代までの美濃焼や陶磁器の生産用具、人間国宝(陶芸家)故・加藤孝造氏の作品を展示。絵付け体験も人気です。

● 瑞浪市明世町山野内1-6
☎ 0572-67-2506
🕒 9:00～17:00
㊦月、祝の翌日、年末年始、他



MIZUNAMI/T-6

NPO瑞浪芸術館



江戸時代の茅葺き民家をリノベーションした現代的なギャラリーです。定期的に絵画・陶芸・木工・講座・ライブ・コンサート等を行っています。

● 瑞浪市稲津町萩原1220-2
☎ 0572-66-2170
🕒 不定休(WEB要確認)



KANI/K-2

可児郷土歴史館



大平・大萱の古窯跡群を擁する久々利地区にあり、美濃桃山陶の黄瀬戸・志野・織部の優品を展示しています。

● 可児市久々利1644-1
☎ 0574-64-0211
🕒 9:00～16:30(入館16:00)
㊦月、祝の翌日、年末年始、他



美濃ゆかりの人間国宝



荒川豊蔵資料館蔵



重要無形文化財「志野・瀬戸黒」
荒川豊蔵
ARAKAWA TOYOZO

可児市内の窯跡で志野の陶片を発見し、同じ場所に窯を築いて桃山陶の再現に邁進。「志野」「瀬戸黒」で重要無形文化財保持者に認定され、「荒川志野」と呼ばれる独自性を確立しました。



岐阜県現代陶芸美術館蔵



重要無形文化財「色絵磁器」
加藤土師萌
KATO HAJIME

岐阜県陶磁器試験場で美濃焼の改良に努め、独立後、中国時代の色絵陶器の研究に注力。中国色絵磁器のなかで最も難しいとされた黄地紅彩や萌葱金欄手などの技法の再現に至りました。



土岐市美濃陶磁歴史館蔵



重要無形文化財「白磁・青白磁」
塚本快示
TSUKAMOTO KAIJI

土岐市駄知町で江戸時代から続く快山窯の11代目。中国の白磁、青白磁を模範としながら、造形に独自のデザインを確立しました。素地が乾ききる前に加える繊細な文様などが特色です。



公益社団法人日本工芸会 写真提供



重要無形文化財「志野」
鈴木藏
SUZUKI OSAMU

現代の技術と独自の創造性で郷里のやきものである志野に取り組み、平成6年(1994)には、荒川豊蔵に次ぐ2人目の「志野」の重要無形文化財保持者に認定されました。



多治見市美濃焼ミュージアム蔵



重要無形文化財「三彩」
加藤卓男
KATO TAKUO

古代ペルシア陶器の色彩や造形に魅了され、幻の名陶ラスター彩の復元に成功しました。宮内庁より正倉院三彩の再現を委嘱され、「三彩鼓胴」と「二彩鉢」を納入しています。



公益社団法人日本工芸会 写真提供



重要無形文化財「瀬戸黒」
加藤孝造
KATO KOZO

岐阜県陶磁器試験場では5代加藤幸兵衛に、独立後は荒川豊蔵に師事。志野・瀬戸黒を原点に、美濃焼の伝統的な技法の伝承と自己のやきものの表現を追求していました。

日本の陶芸史に名を残す6人の巨匠たち

美濃焼の作家

有名な窯元はもちろん、個人で活動する作家も数多。作風もみなそれぞれです。

伝統と個性を忘れず、今日も美濃焼と向き合い続ける 22 名の近代現役作家を紹介します。

有峰窯

有賀 正季氏

ARIGA MASAKI



画家としても活躍。遊び心溢れる造形と豊かな色彩が躍るユーモラスな世界観が魅力的です。

寅と卯の飾りぐい呑み
一見すると虎と兎が盃を交わすオブジェですが、裏返すとぐい呑みに変身します。

📍 瑞浪市稲津町小里44-1
☎ 0572-68-9791 (FAX兼用)

MIZUNAMI / S-7

仙太郎窯

安藤 日出武氏

ANDO HIDETAKE



美濃桃山陶の研究・再現に努め、特に黄瀬戸の技法は、従来とは異なる雰囲気気の深みと重厚さを追求しています。

黄瀬戸茶盃
黄瀬戸において岐阜県重要無形文化財保持者に認定されています。

📍 多治見市市之倉町10-98
☎ 0572-22-3750 🕒 10:00～17:00 📅 日、祝
🌐 http://www.sentarogama.jp/

TAJIMI / G-6

草の頭窯

青山 双溪氏

AOYAMA SOUKEI



2015年岐阜県芸術文化顕彰受賞。2018年多治見市無形文化財(白天目)保持者に登録。工房内にギャラリー併設。

白天目
(徳川美術館収蔵品再現)
500年の時を経て、室町時代の作品を再現。

📍 多治見市小名田町4-3
☎ 0572-22-2950 🕒 10:00～17:00 📅 日
🌐 https://www.kusanokashiragama.com/

TAJIMI / C-3

加藤 委氏

KATO TSUBUSA



多治見市生まれ。1979年に多治見市陶磁器意匠研究所修了。2013年日本陶磁協会賞などを受賞しています。

しずく皿

磁土の繊細さを生かした作品を制作しています。



樹窯

川合 正樹氏

KAWAI MASAKI



2000年第8回日本現代陶彫展金賞、2002年上野の森美術館賞、2020年美濃陶芸茶盃展金賞など入賞。

灰釉茶盃
灰釉一筋40年。これからも灰釉にこだわって作品作りを続けます。

📍 土岐市駄知町1606-7
☎ 0572-59-8849
🌐 http://www.tatukigama.com/

TOKI / O-6

藤兵衛窯 山只華陶苑株式会社

加藤 智也氏

KATO TOMONARI



第56回ファエンツァ国際陶芸展最高賞、第11回国際陶磁器展美濃金賞など国際的に評価されています。

Topological Formation 2017-1
土の可塑性に挑戦し、伸びやかで力強さを感じる作品。

📍 多治見市高田町8-46
☎ 0572-23-6421
🕒 8:00～17:00 (要事前連絡)

🌐 http://yamatada.com/

TAJIMI / C-4

澤沢窯

近藤 裕久氏

KONDO HIROHISA



個展で全国を巡りながら、父・精宏氏(小山富士夫内弟子)と共に瑞浪芸術館運営など地元の文化発展にも尽力。

灰釉鉄紋壺
自然素材を用いて登窯・穴窯で薪窯焼成した温もりあふれる作品です。

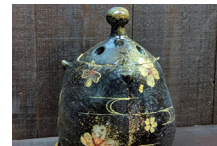
📍 瑞浪市日吉町4764-1-3
☎ 090-7300-5861/0572-69-2845
🕒 不定休(予約制) 🌐 http://hanzawagama.com

MIZUNAMI / R-3

玄保庵

加藤 保幸氏

KATO YASUYUKI



家業の上絵付から作陶の道へ。朝日陶芸展や日展、岐阜県伝統文化継承者表彰などを受賞しています。

彩華錦 香炉桜文
志野や織部を上絵付で彩る独特のスタイルです。

📍 土岐市下石町1427-1
☎ 0572-57-7292 🕒 10:00～17:00 📅 水

🌐 http://genpoan.com/kato.html

TOKI / M-7

瑞光窯

佐々木 辰二氏

SASAKI SHINJI



土岐市生まれ。1999年美濃焼伝統工芸士認定、現在は美濃焼伝統工芸品協会理事を務めています。

青織部茶碗
温故知新を座右の銘とし、伝統的な技法と原材料で制作しています。

📍 土岐市土岐津町高山308
☎ 0572-55-3005
🌐 zuikou@minoyaki.gr.jp

TOKI / M-4

22

玉山窯

玉置 保夫氏

TAMAOKI YASUO





百有余年の歴史に培われた秘伝を継ぐ名匠。伝統を現代の陶芸と融合し、雅の器を創造しています。

今織部壺
あくなき改革精神で、今の時代の織部を表現。

多治見市市之倉10-69

0572-22-3707

9:00〜17:00 ㊟ 土、日、祝(応相談)

TAJIMI / G-6

快山窯

塚本 満氏

TSUKAMOTO MITSURU





父・塚本快示の元で青白磁・白磁の技を研鑽。卓越した技術は土岐市無形文化財にも登録されています。

青白磁 山ボウシ文皿
凜として何とも美しく清々しい白い花をつける初夏の山ボウシが描かれています。

土岐市駄知町1805

0572-59-8415 ㊟ 9:30〜17:00

㊟ 土、日は予約のみ ㊟ http://www.kaizan.net/

TOKI / O-6

むさし窯

辻井 武蔵氏

TSUJII MUSASHI





東京造形大学卒業、愛知県立窯業高等技術専門校修了。草花や生き物などの自然を親しみやすく描きます。

麦文珈琲碗皿
「日々の生活に彩りや温かみを加えたい」という思いで制作しました。

瑞浪市日吉町5451-1

090-8807-8390 ㊟ 要電話予約

㊟ https://instagram.com/tsujii_musashi

MIZUNAMI / R-3

北冥窯

林 保江氏

HAYASHI YASUE





祖父は黄瀬戸の大家である林景正。父・林虎男に師事し、伝統技法を今に伝えます。

志野四方皿、志野山月蓋物
伝統技術を大切にしながら現代にいきる食器、花入、茶盃等を制作しています。

瑞浪市大湫町221-31

0572-63-2556 (FAX兼用)

㊟ 不定休(要事前確認)

MIZUNAMI / T-2

カネ利陶料有限会社

日置 哲也氏

HIOKI TETSUYA





製土会社の代表と作陶家の二つの顔を持ち、土の可能性に挑戦する作品を発表しています。

現象と、なにか
原土を同型に型取り、素材や焼成の方法・温度を変えて変化を検証した作品。

瑞浪市稲津町小里1161-1

0572-68-3229 ㊟ 9:00〜18:00 ㊟ 土、日、祝

㊟ https://kaneritouryou.com/

MIZUNAMI / R-7

黄瀬戸の里 井ノ口窯

水野 敬子氏

MIZUNO KEIKO





土岐市生まれ、加藤唐九郎氏に師事。美濃焼伝統工芸士認定や中部経済産業局長賞など受賞しています。

黄瀬戸コーヒー茶碗
繊細でやさしく、温かみのある黄瀬戸を中心に創作しています。

土岐市駄知町3-1

0572-59-8025

TOKI / O-7

幸兵衛窯

七代 加藤 幸兵衛氏

KATO KOBEI the Seventh





ラスター彩、淡青釉、三彩等の技法で現代感覚溢れる作品を制作。イランとの文化交流にも力を入れています。

ラスター彩カトレア文香炉
遊牧民文化を象徴する香炉。ラスター彩の光沢が見所です。

多治見市市之倉町4-124

0572-22-3821

㊟ 平日・第1・3土 9:00〜17:00、日・祝・第2・4土 10:00〜17:00

㊟ 年末年始、お盆、入替期間 ㊟ http://www.koubei-gama.co.jp

TAJIMI / H-7

徳兵衛窯

林 恭助氏

HAYASHI KYOSUKE



人間国宝加藤孝造氏に師事し、技術を研鑽。黄瀬戸の他、曜変天目の再現に成功したことで知られます。

人間国宝加藤孝造氏に師事し、技術を研鑽。黄瀬戸の他、曜変天目の再現に成功したことで知られます。

土岐市駄知町3-1

0572-59-8025

TOKI / O-7

正神窯

林 正太郎氏

HAYASHI SHOTARO



桃山時代の志野の研究や珍しい割高台の造形などで美濃焼を牽引する作家。岐阜県重要無形文化財保持者です。

利休青紫志野割高台茶盃
青・紫・桃色と白い長石釉の均衡が美しい作品です。

土岐市泉町定林寺442-1

0572-54-1821

㊟ 要電話予約

TOKI / M-3

輝山天神窯

水野 輝幸氏

MIZUNO TERUYUKI





土岐市生まれ。志野の創作において経済産業大臣・中部経済産業局長表彰などを受けています。

鼠志野/志野コーヒー茶碗
素朴な志野の持ち味を生かした、現代の生活にも馴染む作品です。

土岐市泉町定林寺442-1

0572-54-1821

㊟ 要電話予約

TOKI / M-3

北冥窯

向井 一峰氏

MUKAI IPPO





織部の伝承・保存・創作など意欲的に活動。2016年に岐阜県伝統文化継承功績者顕彰を受賞しています。

織部重鉢
伝統的美濃焼の織部・御深井をベースに茶陶、普段使いの器などを作っています。

瑞浪市大湫町221-31

0572-63-2556 (FAX兼用)

㊟ 不定休(要事前確認) ㊟ est.1987.hokumei@gmail.com

MIZUNAMI / T-2

若尾 利貞氏

WAKAO TOSHISADA



岐阜県重要無形文化財保持者であり、志野の創作・伝承に尽力。旭日双光章など多数受賞しています。

鼠志野陶宮
鼠志野の第一人者として卓越した技術が光ります。

土岐市泉町定林寺442-1

0572-54-1821

㊟ 要電話予約

TOKI / M-3

美濃焼の作家

《 若手作家 》

美濃焼の伝統を受け継ぎ広める若き担い手たち。その活躍は目覚ましいものがあります。
通信販売やクラフトマーケットが盛んな今日、美濃焼をより身近に感じさせてくれるでしょう。

アサ佳氏

ASAKA



▲ミナモノモアレ

自分の経験だからこそ生み出せる作品を心掛け、手に取って初めて「あっ!」となるような作品を目指しています。

色原 昌希氏

IROHARA MASAKI



▲胡粉茶壺

高知県出身。多治見市陶磁器意匠研究所を修了後、瑞浪市にて制作を開始。主に磁器土を用いて、暮らしに寄りそう器を創作しています。

尾木 卓弥氏

OGI TAKUYA



▲土ノ形態1603

土で形づくことに魅了され、土が持つ思わず触りたくなるような柔らかさや質量などの魅力を伝えるべく造形物を生み出し続けています。

荻野 由梨氏

OGINO YURI



▲道化の形

愛知教育大学・同大学院を経て、多治見市陶磁器意匠研究所セラミックスラボを修了し同所に勤務。粘土のやわらかな表情に魅了され制作を続けています。

故金 あかり氏

KARUGANE AKARI



▲壺

温かみのある風合いや、どっしりとしたおらかさと佇まい、そして繊細な表情が土の魅力。焼くことを通して、その魅力を表現しています。

土井 洋佑氏

DOI YOSUKE



▲姿

ひも状の土を積み重ねていく手びねりの技法を使い、数ヶ月をかけて1つの作品を制作しています。現在、多治見市陶磁器意匠研究所に勤務。

高橋 生華氏

TAKAHASHI SEIKA



▲深川茶器ティーポット

多治見市陶磁器意匠研究所修了。イギリスの陶磁器に影響を受け、洋食器の伝統的な作り方である鑄込みを使い、ひとつひとつ手作りしています。

東井 真咲朝氏

TOI MASATOMO



▲Thorny

多治見市陶磁器意匠研究所修了。粘土や釉薬の柔らかさと棘との親和性を大切に、向上・反骨・不屈を連想するような有機性のある作品を制作しています。

竹下 努氏

TAKESHITA TSUTOMU



▲青白磁小壺

白磁の食器を主に制作。食器棚にある数ある食器の中から、つい手を伸ばしたくなる器。そんな器を作るべく日々、土と向き合います。Instagram:tebucuro

豊田 敬之氏

TOYODA YOSHIYUKI



▲佇まい

土の柔らかな表情からなる弛みや張りを生かし、何処か艶めかしい形態を意識して作陶しています。

田中 志保氏

TANAKA SHIHO



▲小花

イタリア・フィレンツェでデザインや陶芸を学び、13年滞在。帰国後は愛知県立窯業高等技術専門学校を修了し、現在は織部ヒルズの工房で制作しています。

牧野 真由子氏

MAKINO MAYUKO



▲リトル・メデュース

「見る人の空想の世界を開き、力を抜いて楽しめるような作品を」と生み出された生き物たちは、どこかユーモラスで引き込まれる世界観です。



美濃焼の虜たち

1986年に始まった「国際陶磁器フェスティバル美濃」は、回を重ねるごとに海外での認知度が高くなりました。メイン催事の「国際陶磁器展美濃」は、今や世界の陶磁器デザイナーや陶磁器作家の登竜門として位置づけられています。

開催地の多治見市、瑞浪市、土岐市は、外国人観光客誘致に向け、さまざまな取り組みを行っています。1カ月滞在して作陶を学ぶ「滞在型作陶施設HO-CA」をはじめ、絵付けや作陶を体験できる窯元や工房は人気が高く、毎年数多くの外国人が訪れています。多治見市陶磁器意匠研究所では、2016年から外国人特別選考を設けました。日本で陶芸を学びたいと思う外国人は多く、例年多数の応募があります。

美濃焼の多様性は、その時々流行やニーズに応じてきたことによります。言い換えれば、頑なに伝統を守るという閉鎖的なところがなく、どんなものでも受け入れる懐の深さを持っています。ひとに対しても同様で、海外からの研究生や作陶体験に訪れたひとたちを温かく迎えてきました。ここ美濃焼産地には、学びの場、作陶しやすい環境、発表の機会がすべてそろっており、やきものを愛するあらゆるひとたちにとって、魅力的な場所となっています。

国を越え、どんなものも受け入れる
懐の深さから次の美濃焼が生まれる



呂 雪韻さん
ロ セツイン

中国では、「美濃焼」は身近な存在でした。伝統的な器から現代的な作品まで、美濃焼の表現はとても多彩で、魅力的です。ギャラリーの仕事をしながら制作も続けていて、光と風を作品の表情に生かしたいと頑張っています。

中国生まれ。京都伝統工芸大学校工芸コース陶芸専攻を経て、多治見市陶磁器意匠研究所セラミックスラボを修了。現在は多治見市文化工房ギャラリーヴォイスで勤務。



孫 孝遠さん
ソン ヒョウワン

大学ではデザインのほか、釉薬にも興味を持ち、論文も複数発表しました。会社ではリサイクル食器の制作にも携わっています。どんなチャレンジも許される点が美濃焼の魅力。足を止め、手に取ってもらえるデザインをめざしていきたいです。

韓国出身。愛知県立芸術大学大学院美術研究科陶磁専攻に留学。修士課程修了後、瑞浪市の市原製陶株式会社に入社し、現在はデザイナーとして活躍。



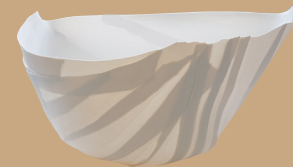
Allman Madeline Fayeさん
アルマン・マデリン・フェイ

中学生の頃に陶芸と出会い、自分の思うままに形をつくり、絵を描けるところが好きになりました。偶然にも赴任先が陶磁器の楽園のような土岐市で、本当にうれしかったです。今も趣味として、いろいろな作品づくりを楽しんでいます。

アメリカ出身。大学では環境学を専攻しながら、興味があった陶芸のクラスにも参加。現在は土岐市の小・中学校でALT(外国語指導助手)を務める。

作品名

浮遊I



作品名

双葉シリーズ 箸置き



作品名

Dream



美濃焼を体験

美濃焼の作陶体験ができる施設では、自分だけの一品を作ることができます。手びねりや電動ろくろでマグカップや湯呑みを作ったり、アクセサリーなどの小物を作ったり。もちろん陶芸が初めてでも大丈夫。素敵な作品と思い出を作りませんか？

TOKI/L-4

角山製陶所

130年以上続く窯元での体験は、日々うつつが生み出される現場ならではの空気に触れられるのも魅力です。

- 土岐市泉明治町5-1
- ☎ 0572-55-2886
- 📅 予約状況に応じる ④ 予約状況に応じる



TOKI/L-2

手わざ工房 匠の館

ろくろで器づくりが体験できます。十数名の陶芸家たちの共同工房でもあり、作品も販売されています。

- 土岐市泉北山町3-2(織部ヒルズ内)
- ☎ 0572-55-1322(要予約)
- 📅 9:00~17:00(冬季は16:00まで) ④ 不定休



MIZUNAMI/S-8

六連房登り窯 陶与左衛門窯

世界一のこま犬や世界一の茶壺にほど近い、六連房の登り窯。毎年9月に焼成を行います。

- 瑞浪市陶町大川786-1
- ☎ 0572-65-3776(要予約)
- 📅 予約状況に応じる ④ 不定休



MIZUNAMI/Q-5

瑞浪市陶磁資料館

専用のクレヨンや油性マーカーを使って、気軽に楽しめるコースターやプチオカリナなどの絵付けが体験できます。

- 瑞浪市明世町山野内1-6 ☎ 0572-67-2506
- 📅 9:00~16:00(体験開催時間)
- ④ 月、祝の翌日、年末年始、他



TAJIMI / B-5

虎溪窯

初心者でもろくろで本格的な美濃焼作りに挑戦でき、豊富な釉薬を用いて自分だけの器を探求できます。

- 多治見市住吉町2-29
- ☎ 0572-22-0129
- 📅 9:00~17:00 ④ 火



TAJIMI / C-4

七窯社 鈴木タイル店

美濃焼タイルや陶器の温かさを感じられる「やきものアクセサリー」のワークショップが体験できます。

- 多治見市高田町8-106
- ☎ 0572-22-0388
- 📅 10:00~18:00(土は15:00) ④ 日、祝



TAJIMI / D-6

安土桃山陶磁の里 ヴォイス工房

年1回開かれる「穴窯フェア」では、穴窯で薪をくべて、昔ながらの方法で器を焼成できる貴重な体験ができます。

- 多治見市東町1-9-17
- ☎ 0572-25-2233
- 📅 9:00~18:00(受付は15:00まで) ④ 火



TAJIMI / B-4

こども陶器博物館 KIDS LAND

「来て、見て、体験!」。陶磁器への絵付けが簡単に楽しく体験できます。ポーセラーツ(転写)コースもあります(要予約)。

- 多治見市旭ヶ丘10-6-67
- ☎ 0572-27-8038
- 📅 10:00~16:00 ④ 月、火(祝の場合は開館)

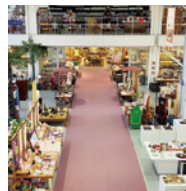


TAJIMI / B-3

窯元織部本店 アトリエ織部

品揃え豊富な販売店に併設する体験工房。ろくろ・手びねり・たたらで自分だけの陶芸作品作りができます。

- 多治見市旭ヶ丘10-6-130
- ☎ 0572-26-9555
- 📅 10:00~17:30(受付は16:00まで) ④ 無休



TAJIMI / A-7

ボイス オブ セラミックス

電動ろくろや手びねりで初心者でも楽しく陶芸体験ができます。体験スペースが広く、最大200人の団体でも利用OK。

- 多治見市富士見町3-68-1
- ☎ 0572-25-7267
- 📅 10:00~18:00(受付は15:00まで) ④ 水



シェフの気まぐれランチ

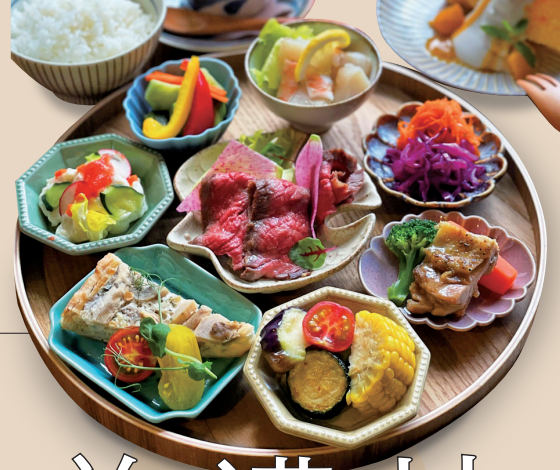
地元のうつつと旬の食材を生かした料理をカジュアルに楽しむ、結婚式場が手掛ける隠れ家キッチンです。

Kitchen TOOKI(キッチントーキ)

TOKI/L-6

◎ 土岐市土岐津町土岐口2495-2
☎ 0572-26-9888
◎ 木・金11:00～14:00(予約制)
◎ 不定休 ◎ 有

WEB



美濃焼と美食

国産馬刺し7種盛

九州の契約牧場から直送する純国産馬刺し。ふたえごや特上霜降りなどが楽しめる一皿です。

仕出し・寿司会席 駒寿し

TOKI/M-4

◎ 土岐市泉町久尻44-10
☎ 0572-54-5151
◎ 11:30～14:00、17:00～22:00
◎ 水 ◎ 有

WEB



樽生クラフトビール

醸造所併設バーならではの出来立てビールを、陶芸家と開発したビアカップで。より深い味わいを堪能できるはず。

カマドリユワリー HAKOFUNE

◎ 瑞浪市釜戸町3154-3 ☎ 0572-51-2620
◎ 金18:00～22:00、土12:00～22:00
日・祝12:00～19:00
◎ 月～木
◎ 有

WEB



MIZUNAMI/T-3

瑞浪ボーノポークセット

美濃焼の大皿に地元ブランド豚肉・瑞浪ボーノポークや野菜などが勢ぞろい。手ぶらで利用できる屋根付きバーベキュー場です。

きなあた瑞浪 バーベキュー広場 MIZUNAMI/R-4

◎ 瑞浪市土岐町6059 ☎ 050-3187-8655
◎ 平 日11:00～16:00
土日祝10:00～13:00(LO11:00)
14:00～17:00(LO15:00)
◎ 火 ◎ 有

WEB



会席

美しい器が彩るA5飛騨牛や鮮魚、旬のおもてなし料理を、掘りごたつでゆったり楽しめます。

日本料理 わさび

TAJIMI/B-5

◎ 多治見市住吉町2-1-1
☎ 0572-23-8110
◎ 11:00～14:30(LO13:45)
17:00～22:00(LO20:00)
◎ 月(祝の場合は翌火)
◎ 有

WEB



食事を豊かに演出する器の数々。

「食」と「美濃焼」が織りなす

彩りの心が笑^{みの}える時間を、器とともに。

優月オリジナルキャビア

多治見市観光大使の店主自ら、料理に合わせて陶器をデザイン。食を通じて地元や日本料理の魅力を伝えます。

うなぎ 日本料理 優月

TAJIMI/B-6

◎ 多治見市音羽町4-32-1 1F
☎ 0572-44-8324
◎ 11:00～13:30、17:00～22:00
◎ 不定休 ◎ 有

WEB



美濃焼の器や小物を扱うショップがひしめく東濃エリア。その個性はさまざま。お気に入りの器を探してウィンドウショッピングを楽しむのもおすすめです。

TAJIMI/H-3

陶都創造館



蔵のイメージを取り入れたモダンな外観。多治見の土産や美濃焼を購入でき、ギャラリーも併設しています。

☎ 多治見市本町5-9-1
0572-26-8509
🕒 10:00~18:00(一部テナントは~16:00)
🚗 年末年始(一部テナントは水定休)



TAJIMI/B-3

美濃焼スクエア



美濃焼卸センター内にある、陶磁器の即売店。数々の和洋食器や一点物の作家作品などを展示・販売しています。

☎ 多治見市旭ヶ丘10-6-33
0572-27-2889
🕒 10:00~17:00
🚗 水、木



TAJIMI/D-5

ギャルリ百草



陶作家・安藤雅信氏が主宰するギャラリー。衣食住から見つめた美術・工芸の在り方を紹介しています。

☎ 多治見市東栄町2-8-16
0572-21-3368
🕒 11:00~18:00
🚗 不定休



TAJIMI/G-3

前畑(Mショップ)



美濃焼の伝統と現代に出逢える店。暮らしを彩る多彩な器を展示販売。各種、贈答・返礼品にもおすすめです。

☎ 多治見市前畑町2-12
0572-24-1111
🕒 10:00~17:00
🚗 土、日、祝



TAJIMI/H-3

新町ビル
山の花

50年前のビルを改築した新町ビルの中で、東美濃の作家・メーカーのやきものを中心に幅広く販売しています。

☎ 多治見市新町1-2-8 新町ビル2F
0572-44-7711
🕒 12:00~18:00
🚗 火、水



TAJIMI/J-3

セラミックパークMINO
ショップ&ギャラリーMI-NO

岐阜県現代陶芸美術館(P16)と併設。美濃焼のテーブルウェアや地元の土産物が並びます。

☎ 多治見市東町4-2-5
0572-26-3200
🕒 10:00~17:30
🚗 月(祝の場合翌平日)、年末年始



TAJIMI/H-3

織部うつわ邸



情緒あふれる旧商家を利用した店。地元窯元の個性的な作品や和洋陶器・和雑貨を販売。

☎ 多治見市小路町3-2
0572-25-3583
🕒 10:00~17:30
🚗 無休



TAJIMI/G-6

うつわの店たかぎ



人間国宝や現代作家の作品、高級和食器まで多種多様に展示・販売。手頃な価格もうれしいところです。

☎ 多治見市市之倉町8-100
0572-26-9513
🕒 10:00~15:00(土日祝~17:00)
🚗 火、年末年始



TOKI/L-2

道の駅 志野・織部



志野・織部・黄瀬戸など数々の名品が焼かれた地を象徴する煙突が目印。陶磁器がリーズナブルに購入できます。

☎ 土岐市泉北山町2-13-1
0572-55-3017
🕒 9:00~18:00
🚗 1/1



TOKI/M-4

陶土う庵~とうとうあん~



由緒ある美濃焼の新作を季節に応じて展示販売。リニューアルした明るい店内と併せて、WEBショップ(下記QR)も展開中。

☎ 土岐市土岐津町高山4セタピア土岐1F
0572-53-0005(土、日、祝除く)
🕒 9:00~17:00
🚗 年末年始



TOKI/N-6

道の駅 土岐美濃焼街道
どんぶり会館

陶芸体験の他、市内約100の窯元の作品も販売。どんぶりプレゼント付きランチがあるレストランも魅力です。

☎ 土岐市肥田町肥田286-15
0572-59-5611
🕒 9:00~17:30(冬期は17:00)
🚗 火(祝の場合は翌日)



TOKI/L-2

織部ヒルズ



ナゴヤドーム5個分の敷地に個性豊かな10店舗が集結。上質な「陶器のある生活」を提案しています。

☎ 土岐市泉北山町3-1
0572-55-1322
🕒 各店舗により異なる
🚗 各店舗により異なる



TOKI/L-6

テラスゲート土岐まちゆい
もとてらす東美濃

東美濃エリアの観光情報や魅力を発信するスポット。地元陶芸家の作品や名産品などを取りそろえています。

☎ 土岐市土岐ヶ丘4-5-3
0572-55-1123
🕒 10:00~18:00
🚗 木



＼(もっと) 詳しく知りたい方は /

多治見市: <https://tajimi-dmo.jp>
土岐市: <https://toki-kankou.jp>
瑞浪市: <https://xn--w0w51m.com/>



美濃焼の魅力があふれる場所、もの、ことをたくさん紹介しています。自ら産地へ赴き、「ふれる」「つくる」「あじわう」「かう」といった普段はできない体験で、記憶に残る1日をお過ごしください。

東濃イベントカレンダー

春(3～5月) 夏(6～8月) 秋(9～11月) 冬(12～2月) ☉…美濃焼関連イベント

TAJIMI | 4月第3土・日曜日

☉ たじみ陶器まつり(春)

毎年県内外から人が訪れ賑わう春の風物詩。販売市が開かれ、様々なやさしものと出会えます。



MIZUNAMI | 4月14日に近い日曜日

半原文楽奉納

県指定無形民俗文化財に指定されている操り人形浄瑠璃による奉納上演です。



TOKI | 5月3日～5日

☉ 春の美濃焼 伝統工芸品まつり

伝統工芸士が手がけた一品の販売や伝統工芸品を使用しての茶会などが開催されます。



TOKI | 5月3日～5日

☉ 土岐美濃焼まつり

日本三大陶器まつりの1つである陶器市。出店者は300を超えます。



TOKI | 7月下旬

炎の祭典

土岐市織部まつり

土岐川河川敷で行われる花火大会。土岐市の夏の風物詩です。



TAJIMI | 8月1日に近い日曜日(予定)

みんなでてりやあ夏まつり&

多治見市制記念花火大会

音楽に合わせるミュージック花火が見もの。夏まつりごっこ横丁に多くの子どもが訪れます。



MIZUNAMI | 8月7日に近い土・日曜日

瑞浪美濃源氏七夕まつり

バサラ踊りや花火、美濃焼の土に触れる陶土フェスタなどが開催されます。



TAJIMI | 10月中旬～11月中旬

☉ 国際陶磁器フェスティバル美濃

3年に一度開催される世界最大級の祭典。世界各国の陶磁器作品が展示されます。



MIZUNAMI | 9月最終金・土曜日

美濃歌舞伎公演

明治時代の芝居小屋を移築・復元した相生座で、美濃歌舞伎保存会が上演します。



TAJIMI | 10月中旬

☉ たじみ陶器まつり(秋)

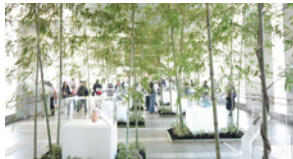
美濃焼の大販売市や蔵出しセールが行われます。大抽選会や催し物も同時開催。



TAJIMI | 10月中旬

☉ 美濃焼祭(みのやきさい)

巨匠陶芸家による作品展示や地元窯元の陶磁器販売を通して美濃焼の魅力を発信。



TOKI | 10月第2日曜日

八幡神社例祭「流鎗馬」

陣笠陣羽織や古式衣装姿の6人の少年たちが馬を操り、参道を疾走。迫力満点です。



TOKI | 10月下旬～11月上旬

☉ 下石どえらあええ陶器まつり

100近くの窯元がある下石町で開催されます。窯元めぐり他、ステージイベントもあります。

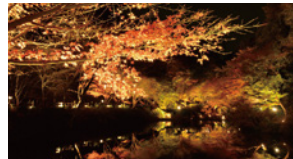


TOKI | 11月中旬

穴弘法もみじと

100地蔵のライトアップ

夕闇に浮かぶもみじと蝋燭に照らされた104体の石仏が美しい情景をつくります。



TAJIMI | 11月3日

多治見まつり

美濃ゆかりの武将やその奥方が道を練り歩くパレード。駅前でイベントも開催。



MIZUNAMI | 11月

☉ みずなみ陶器まつり

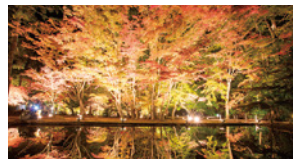
陶磁器即売会の他、絵付け体験コーナーや瑞浪のグルメコーナーなどもあり、年齢問わず楽しめます。



TOKI | 11月上旬～中旬

曾木公園もみじライトアップ

モミジやカエデなど約300本の樹木が色づき、ライトアップされます。大小8つの池に映る「逆さ紅葉」をぜひ写真に収めてみて。



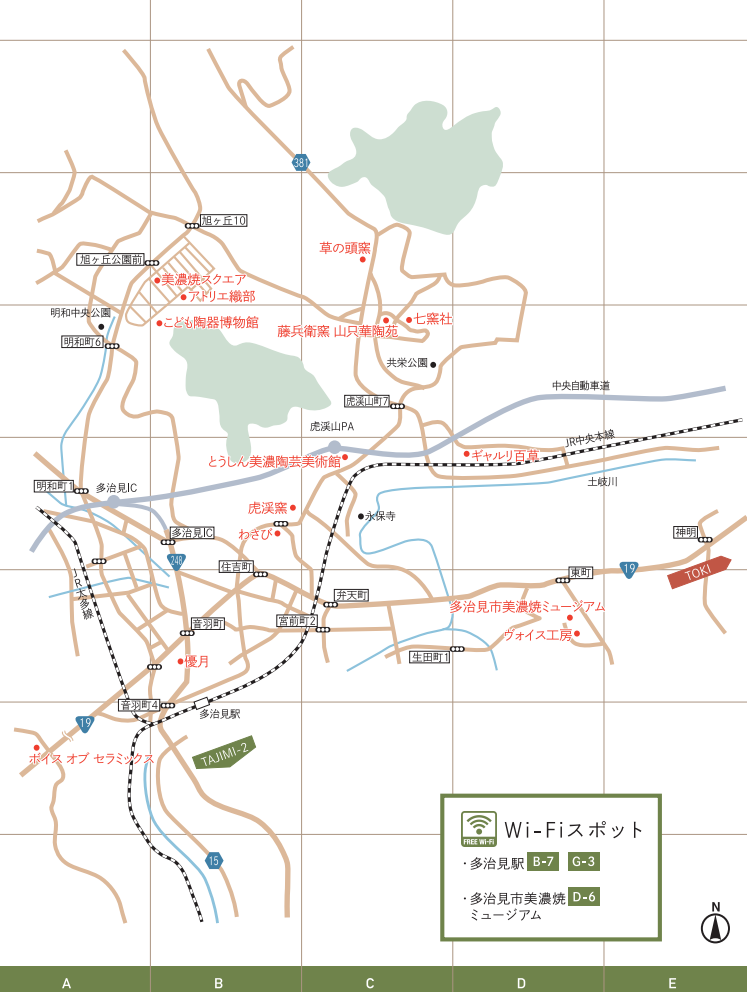
MIZUNAMI | 12月中旬

バサラカーニバル

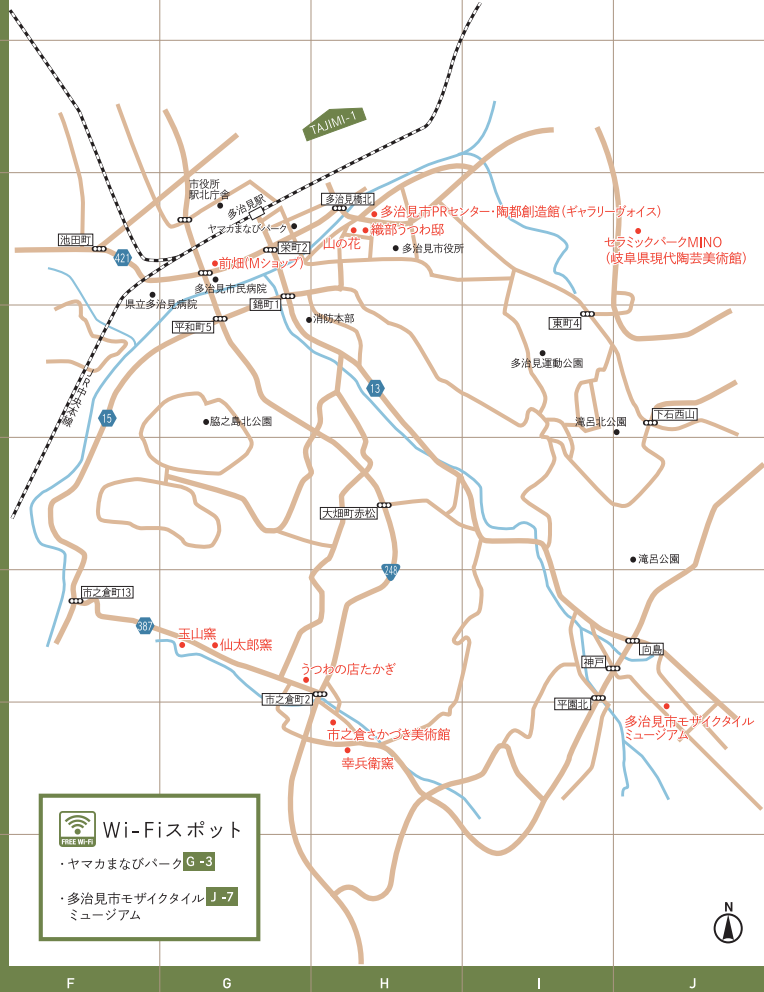
1万人を超える人々が全国から集まり踊りを披露。記念のモチ投げも行います。



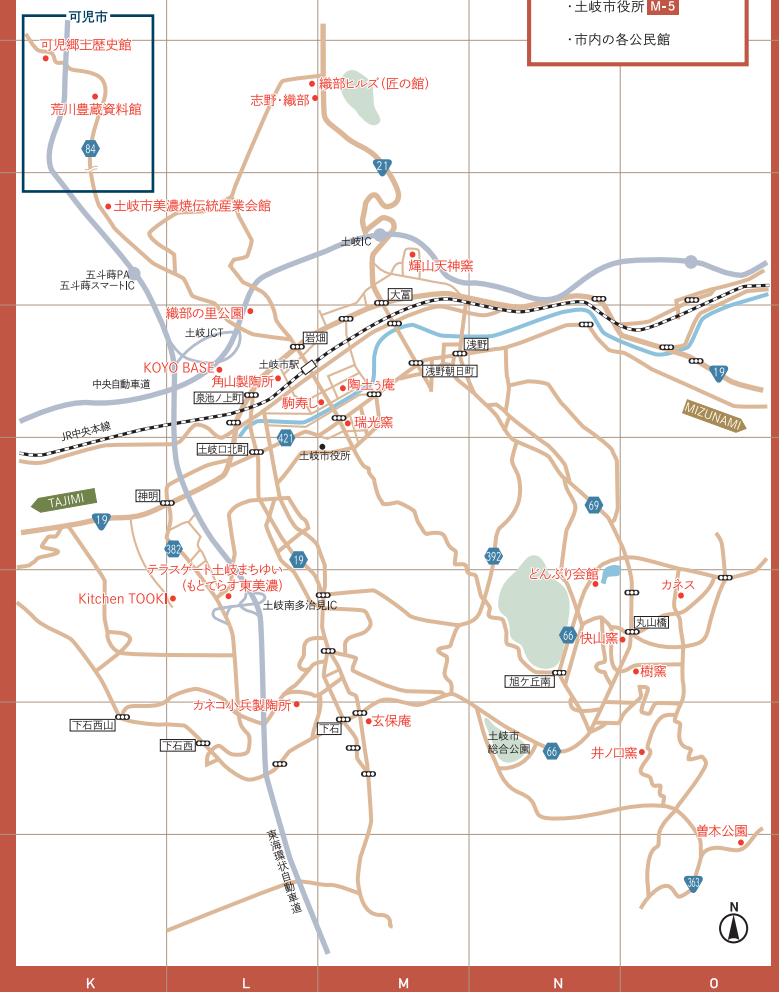
エリアマップ多治見1 (多治見駅北)



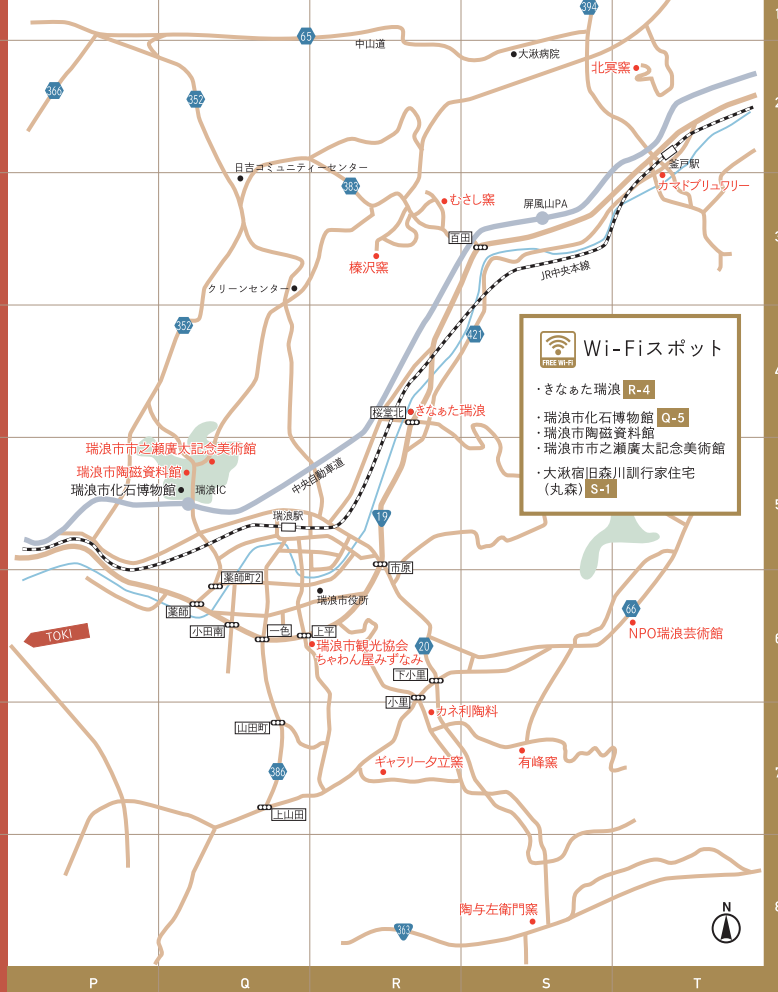
エリアマップ多治見2 (多治見駅南)



エリアマップ土岐



エリアマップ瑞浪



美濃焼の旅 INFORMATION

旅をより楽しく過ごすための役立つ情報をチェックしましょう。



アクセス

- 1 東京国際空港 (羽田空港)
- 2 成田国際空港
- 3 中部国際空港
- 4 関西国際空港

鉄道を
ご利用の場合

車を
ご利用の場合

観光に関するお問合せ

多治見市PRセンター

☎0572-23-5444 ☎多治見市本町5-9-1 (陶都創造館1階) ◎tajimi-dmo.jp/tajimiprcenter/

多治見駅観光案内所

☎0572-24-6460 ☎多治見市音羽町2 JR多治見駅2階

中山道観光案内所(丸森)

☎0572-63-2455 ☎瑞浪市大湫町445-2 ◎okute-shuku.jp/about/marumori

(一社)土岐市観光協会

☎0572-54-1111 ☎土岐市土岐津町土岐口2101 (土岐市役所内) ◎toki-kankou.jp

もとてらす東美濃

☎0572-55-1123 ☎土岐市土岐ヶ丘4-5-3 (テラスゲート土岐・まちゆい内) ◎https://mototerasu-higashimino.jp/

瑞浪市観光協会

☎0572-51-8161 ☎瑞浪市上平町5-5-1 ◎瑞浪.com(xn--w0w51m.com)

レンタカー

ジャパンレンタカー(株) 多治見店

☎0572-24-2121 ☎多治見市若松町2-19-1
◎j-rentacar.com/store/tajimi.php

トヨタレンタカー 多治見店

☎0572-25-0160 ☎多治見市白山町4-33-1
◎rent.toyota.co.jp/sp/shop/detail.aspx?rCode=64501&eCode=006

オリックスレンタカー 多治見店

☎0572-21-0543 ☎多治見市若松町1-9-1
◎car.orix.co.jp/shops/?shops_pk=428

(株)ホンダカーズ岐阜 土岐店

☎0572-55-4611 ☎土岐市泉大島町5-8
◎www.hondacars-gifu.co.jp/home/sr10.html

トヨタレンタカー 土岐店

☎0572-53-1200 ☎土岐市泉寺田町2-21
◎rent.toyota.co.jp/sp/shop/detail.aspx?rCode=64501&eCode=017

ニコニコレンタカー 瑞浪薬師店

☎0572-67-3711 ☎瑞浪市薬師町4-30-1
◎2525r.com/gifu/mizunami/store-00074-002.html

タクシー

対応エリア… ■ 多治見 ■ 土岐 ■ 瑞浪

多治見タクシー

☎0572-22-2216

平和タクシー

☎0572-68-6111

コバヤンタクシー

☎0572-68-3311
0120-33-1168

近鉄東美タクシー多治見営業所

☎0572-22-6236

東鉄タクシー

☎0572-22-1211 (多治見) ☎0572-68-2277 (土岐・瑞浪)

SKUタクシー

☎0572-65-2889

バス

ききょうバス

https://www.city.tajimi.lg.jp/kurashi/toshiekaku/kotsu/kikyobus/index.html



土岐市民バス

https://www.city.toki.lg.jp/kurashi/doro/1004727/1004385.html



平和コーポレーション

https://www.heiwa-co.com/



東濃鉄道

https://tohtetsu.co.jp/



このパンフレットに関するお問合せ

多治見市産業観光課

☎0572-22-1250

土岐市産業振興課

☎0572-54-1111

瑞浪市商工課

☎0572-68-2111

東濃西部広域行政事務組合

発行: 2023年12月 このパンフレットは令和3年度に岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を受けて制作しました